

寺町下水路(通称)の整備について

質問(相馬大藏議員) 寺町下水路(通称)の手動型水門を電動式の水門に改修すべきと思うが、考えを伺います。

答弁(水道部長) 寺町雨水幹線につきましては、昭和三十五年度から四十八年度にかけて整備されましたが、総延長二千七百六十一メートルのコンクリート製柵渠構造の水路であります。

寺町雨水幹線は合計九か所の水門が設置されており、三か所が水田への用水に、二か所が他の水路への分水に、一か所が他

の水路の余剰排水に、三か所は現在使用されていないのが現状であります。

水門は設置してから約五十年が経過しており、いずれも旧式のもので、老朽化も進んでおり、操作性が悪く、簡単には開閉ができない状態となっております。

これらの水門の年間開閉回数につきましては、大田原地区広域消防の出動実績から、少ない年で年十回、多い年では二十回ほどであり、平成二十二年度の出動実績については、十三回でありました。



事業仕分けの様子

事業仕分け中止について

質問(増淵寛江議員) 事業仕分け中止の理由と今後の実施計画を伺います。

答弁(市長) 事業仕分けにつきましては、昨年十月三十日に、十名の委員が二班に分かれ二十一の事務事業を対象として、事業の必要性、実施主体のあり方、実施方法の妥当性等を参考資料や担当職員からの説明を受け、慎重に検討をいたしました。

結果につきましては、不要の事業が三事業、市が実施するが、ただし改善を要する事業が十六事業、

現行どおりが二事業という内容でした。この事業仕分けの結果を踏まえ、平成二十三年度予算を編成しました。

しかし、三月十一日に発生した東日本大震災やそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故により、本市でも大きな被害、影響を受けました。

このような緊急事態に際し、市といたしましては、最優先で災害対策等を実施してきたところであり、私のマニフェストの一つである学校給食の無料化につきま

しても、当初予算には、無料化の予算を計上していましたが、災害対策のために助成額を一カ月二千万といたしました。

このような状況にあつて、今年度はあえて市民による事業仕分けを実施するのではなく、災害復旧のための事業の着実な執行や昨年の事業仕分けの結果を着実に実行することを最優先とし、今年度は事業仕分けの実施を見送ったほうがよいと判断したところでありました。

今後の事業仕分けの実施につきましては、災害復旧の状況や昨年度の事業仕分けの結果などに一応の目安がついた段階で検討してまいりたいと考えております。

このような開閉頻度を考慮いたしますと、電動式への全面改修費用として一か所当り概算工事費で約一千五百万円程度の費用がかかることから、当面は電動式水門への改修は見送りたいと考えております。

しかし、水門自体老朽化しておりますので、水門開閉の巻き上げ装置のメンテナンスを早急に行うことで、開閉作業が少しでも軽減できるように改善していきたいと考えております。

また、これに並行いたしました、水門の部分的な改修で電動化ができないものか、早急に調査・研究をまいりたいと考えております。



寺町下水路に設置されている手動型水門